

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

42. ノミノフスマ (ナデシコ科ハコベ属)

Stellaria uliginosa Murray var. *undulata* (Thunb.) Fenzl

2016年3月

田んぼや畦畔などの日当たりのよいやや湿ったところに生育する越年草です。茎は無毛で株立ちし枝を分け、匍匐するように生育します。葉は対生し無毛無柄で長楕円形、鋭頭の長さ10~20mm緑白色で縁は波状となります。花は数個が集散花序となり、花期は長く3~8月ごろまで咲き続けます。花序には苞があり白色膜質の卵状披針形で長さ2.5mmです。花柄は長さ10~15mm、がく片は披針形で長さ3~3.5mm、花弁はがく片よりやや長く、白色で2深裂、夏になると閉鎖化をつけるようになります。分布は北海道、本州、四国、九州、朝鮮、中国で、姫路市域の郊外ではありふれた植物で広く見られます。名前の由来は小さな葉を蚤の衾(上にかける寝具)にたとえたものといわれます。同所的に似た植物でノミノツヅリ (*Arenaria serpyllifolia* L.) が見られます。本種はナデシコ科ノミノツヅリ属植物で、ノミノフスマとは別属ですが雰囲気的に華奢な草姿が似ていますが、花弁がノミノフスマは2深裂するのに対し、ノミノツヅリは5枚の花弁は裂けないところが大きな違いです。両種とも小さな花ですが注意深く観察すれば容易に識別できます。



ノミノフスマ



ノミノフスマ花拡大



ノミノツヅリ



ノミノツヅリ花拡大